

第三者評価結果

事業所名：ユースフルデイりあくと

A-1 生活支援の基本と権利擁護

A-1-(1) 生活支援の基本	第三者評価結果
<p>【A1】 A-1-(1)-① 利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。</p>	a
<p><コメント> 午前のプログラムは入浴と、機能訓練としてのパワーリハビリやエアロバイク、歩行訓練などがあり、理学療法士や看護師による機能訓練を行っている。昼食、休憩後は、園芸や手工芸、オセロ、ゴミ入れ作りなどを行う方や、近隣の高齢者住宅に行き、ペットボトルの仕分けやウエス作りなどのボランティア活動に参加する方もいる。地域に向けた活動では、RUN伴や、SDGs活動として地域のゴミ集めなどを行っている。SDGs活動は市からパートナーとしての認定を受け、表彰され、登録証をもらっている。利用者や家族に満足度調査を実施して、通所介護で行いたい取り組みを聴いている。利用者からは、花壇作りがやりたい、裁縫がやりたい、将棋がやりたいなどの希望があり、プログラムに取り入れて実施している。また、認知症の方にはコグニサイズ（認知症のための身体と頭を使う運動）をその方の状態に合わせて行ったり、指ヨガやポッチャ、風船バレーなどを行っている。</p>	
<p>【A2】 A-1-(1)-① 利用者の心身の状況に合わせて自立した生活が営めるよう支援している。</p>	
<p><コメント> 通所介護事業所のため、評価外とする。</p>	
<p>【A3】 A-1-(1)-① 利用者の心身の状況に応じた生活支援（生活相談等）を行っている。</p>	
<p><コメント> 通所介護事業所のため、評価外とする。</p>	
<p>【A4】 A-1-(1)-② 利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。</p>	a
<p><コメント> 利用者の中に失語症の方が10人程おり、筆談やジェスチャー、リングカードを使って、コミュニケーションを取っている。またカードを使って会話を行うトーキングマット（絵カードを使っての会話）を活用している方も2名いる。トーキングマットの研修を受けた職員が、他の職員に伝達し、どの職員とも会話ができるようになってきている。利用者のほとんどは言葉での会話が可能である。職員はコミュニケーションについて、クリニカルラダー（キャリアを積むため目標を持ち段階ごとに学習する）の研修を、ラダー（段階）ごとに受けている。年1回、全職員が「接遇チェックシート」を用いて、言葉遣いについて振り返りを行っている。クレームなどがあった場合は、クレームシートに記入し、サービス適正化委員会で共有や検証、改善を行っている。</p>	
A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
<p>【A5】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。</p>	a
<p><コメント> 利用者の権利擁護については、マニュアルや運営規程、重要事項説明書に明記している。月1回、虐待防止委員会を開催し、虐待発生の防止に関する点検やアンケートなどを実施している。アンケートは無記名で全職員に行い、不適切なケアと感じたことなどを記入し、集計して内容を検討している。身体的な虐待や身体的な拘束はないが、「ちょっと待って」という声掛けや、職員同士が利用者の話をするときの声の大きさなどに気を付けるようにしている。目に見えない心理的な虐待が起こらないように気をつけている。虐待の防止や身体拘束の廃止の研修は、動画教材や県のマニュアル・資料を活用して定期的に開催している。</p>	

A-2 環境の整備

A-2-(1) 利用者の快適性への配慮	第三者評価結果
<p>【A6】 A-2-(1)-① 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>事業所への到着時や運動時、昼食時など、それぞれのシーンに合わせて、利用者が落ち着く曲や活動的な曲をBGMで流して、雰囲気作りを行っている。室温は運動をしている時や、落ち着いた活動の時など、状況に合わせて調節している。窓は常に10センチほど開けて換気し、1時間半ごとに全開にして、空気の入れ替えを行っている。フロアで使用する椅子は数種類用意し、テーブルの高さや足台は、利用者それぞれに合ったものを使用している。特に椅子からの移動時には、右から出るか、左から出るかによって、杖ホルダーの位置を決めて、動線の整備に配慮している。食後に横になりたい方は、静養室のベッドを使用している。月1回、「5S管理チーム」（整理、整頓、清掃、清潔、躰）が環境ラウンドを行い、項目に沿って、電気の切れている所や破損箇所などを点検している。修繕が必要な場合は、本部の病院の総務課に連絡している。</p>	

A-3 生活支援

A-3-(1) 利用者の状況に応じた支援	第三者評価結果
<p>【A7】 A-3-(1)-① 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>機械浴は入浴用車椅子のまま浴槽内に入ることができるタイプを設置している。自宅では浴槽をまたぐことが困難なため、入浴を目的にして利用している方も多し。入浴前にバイタルチェックを行い、入浴の可否の判断を看護師が行っている。利用者個々に入浴支援計画を作成し、その方の機能を活かした入浴を提供している。入浴時はプライバシーに配慮し、同性介助を行っている。集団での入浴が苦手な方、排泄用のパウチを付けている方、乳がんの手術をした方などは、できるだけ人が少ない時間帯に入ってもらっている。認知症があり、入浴を拒否する方は、時間をずらしたり、何度か声をかけて前もって伝えておいたり、職員と一緒に入るなど、その方に合わせて誘導している。</p>	
<p>【A8】 A-3-(1)-② 排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>洗面所の奥にトイレがあり、普通トイレと車椅子用トイレがある。利用者のうち、8割の方は自立しているが、声掛け、一部介助が必要な方もいる。尿量を確認しなければいけない方、便の調整が必要な方などはチェック表に記録している。リハビリパンツを、安心のため使用している方もいる。トイレでは手すりを持ってもらい、立ち上がる動作ができるように訓練しているので、利用者全員がトイレを利用している。排泄のため介助者が抱え上げることは行っていない。利用者に最後までトイレで排泄しようという気持ちを持ってもらうことを基本として介助している。個別排泄支援計画を作成して、麻痺側で壁によりかかり、健側でズボン上げるなど、その方に合った方法で行っている。</p>	
<p>【A9】 A-3-(1)-③ 移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>移動動作は、見守りが必要だが、ほぼ自立している方が7割、その他の方は車椅子や歩行器で移動している。利用契約時に、自宅での生活状態の機能評価、動作評価をセラピスト(理学療法士、作業療法士)により調査し、課題を確認して、個別機能訓練計画を作成している。送迎車がステップの高い車の場合は、車椅子で対応するなど、その場に応じて対応を変えて支援している。送迎のドライバーが7人おり、送迎車7台が稼働している。利用者の対応はドライバー以外の添乗員1名が支援にあたっている。自宅では入浴の際、浴槽をまたぐことが困難な方が多く、そのような課題のある方は、足を上げるなどの機能訓練を行っている。</p>	

A-3-(2) 食生活	第三者評価結果
【A10】 A-3-(2)-① 食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a
<コメント>	
<p>近くにある本部の病院の厨房で昼食を調理して、事業所の厨房に運び、利用者一人ひとりに合わせた食事を提供している。食事は温冷配膳車で、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供している。特に嗜好調査は行ってはいないが、利用契約時に、利用者や家族から嗜好や治療食の必要性、アレルギーの有無などを聴き取り、「りあくど食事箋」に記録している。年に数回、喫食イベントとして、目の前でお寿司を握ってもらうお寿司の日や、外での流しそうめん、屋台メニューなど、食事を楽しむことができる日を設けている。ラーメンが食べたいなど、利用者から希望が出ると、栄養士が献立に反映している。食事時はBGMをかけて、穏やかに楽しく食べることができるよう工夫している。また、食事前に口腔体操を行う他、毎日、栄養に関する話をして、利用者が楽しく食事を摂ることができるよう取り組んでいる。</p>	
【A11】 A-3-(2)-② 食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a
<コメント>	
<p>食事形態は、常食、1口刻み、刻み、みじん、ミキサー、ペーストと、6段階用意しているが、現在は常食や刻みの方が多い。胃ろうの方が1名おり、看護師が対応しているが、必要に応じて、資格を持った介護福祉士もサポートをしている。また、糖尿病や高血圧の疾患のある方には、治療食を提供している。食事が摂取しにくい方には、お皿やスプーンなどの自助具を使って食べてもらっている。椅子やテーブルとのフィッティング、食事の姿勢、口腔状態などに問題がないか、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、食事を提供している。利用者の食事のペースや、その後の入浴や活動などのサービス時間にも配慮して、誘導を行っている。食事摂取量や状況は、連絡帳で家族に伝えている。</p>	
【A12】 A-3-(2)-③ 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	a
<コメント>	
<p>利用契約の際に、口腔ケアの状況について聴き取り、歯ブラシやコップなどを用意してもらっている。ブラッシングが困難な方には、うがいだけでも行ってもらっている。全利用者を対象にして、定期的に口腔機能のチェックを行い、「口腔健康状態と栄養状態についての経過記録」に記録している。口腔機能向上チームにより、「口腔機能サービス評価」を行っている。また、口腔機能向上マニュアルがあり、摂食訓練、咀嚼訓練、嚥下訓練、早口言葉などのプログラムがある。口腔ケアは、個別に行う方もいるが、全員で楽しみながら行う場合もある。義歯の着脱や管理方法などの指導も行っている。</p>	
A-3-(3) 褥瘡の発生予防・ケア	第三者評価結果
【A13】 A-3-(3)-① 褥瘡の発生予防・ケアを行っている。	a
<コメント>	
<p>褥瘡予防指針やマニュアルを整備している。ほとんどの利用者は活動しているので、現在褥瘡のある方はいない。以前、自宅で生活していた方が入院し、褥瘡ができて退院してきたことがあり、看護師や栄養士、介護職との連携により、支援計画を立てて治癒したケースがある。椅子使用の利用者には、座ったままではなく、立ち上がりの姿勢をとってもらったりしながら、褥瘡の発生に気をつけて観察している。</p>	
A-3-(4) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養	第三者評価結果
【A14】 A-3-(4)-① 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	a
<コメント>	
<p>特定行為事業者として事業所登録をしており、医療的ケア教員講習修了者2名、第一号研修修了者1名、第三号研修修了者2名を確保している。現在、経管栄養の注入は看護師が中心に行っているが、看護師が緊急で外出した場合は、看護師の指示のもと、手順書に沿って介護職が行っている。手順書は個別の手順書を作成しており、写真入りで間違いが起こらないよう工夫している。経管栄養の方には「医療的ケア（経管栄養）」の記録用紙に、挿入時の状態や吐き気、嘔吐がなかったかなど、細かに記録している。インシデントが起きた時は、個別でレポートを作成し、安全委員会に報告している。</p>	

A-3-(5) 機能訓練、介護予防	第三者評価結果
【A15】 A-3-(5)-① 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a
<コメント>	
常勤の作業療法士1名と、理学療法士1名を確保して、個別に機能訓練を行うチームや、趣味活動、ゲームなどの活動実践チームを置いている。利用者は自分の意思で、今日は何をやるのかを決めている。活動実践チームは、公園の散歩や高齢者住宅を訪問し、ペットボトルの仕分けなどのボランティア活動や、RUN伴、地域のごみ拾いなどのSDGs活動など、事業所の外に出た活動も活発に行っている。事業所内では、花壇作りや貼り絵、ポッチャ、将棋などを行っている。夏祭りやバザー、フィットネスカフェなど、地域の方に来てもらっていたが、コロナ禍のため、現在は活動が制限されている。筋力アップのためのリハビリや、歩行訓練のため平行棒などを使い、個別機能訓練を専門的にしている。	
A-3-(6) 認知症ケア	第三者評価結果
【A16】 A-3-(6)-① 認知症の状態に配慮したケアを行っている。	a
<コメント>	
医師から認知症の診断を受けている方が5人ほど利用している。時々大声を出すことがあったり、何をするのかわからない、待つことが嫌になるなどの行動に対して、その時々の原因を考え、対応を考えて支援している。利用者をよく知るため、送迎時や屋外活動、屋内活動、食事などの場面で、表現や表情などを「サポートレコード」に、期間を決めて記入した結果、その方の思いなどがわかるようになってきている。「サポートレコード」を参考にしながら支援している。また、100歳体操、コグニサイズ、指ヨガなどを取り入れ、認知症のケアにあっている。職員は認知症介護指導者研修など、認知症の研修に多く参加している。	
A-3-(7) 急変時の対応	第三者評価結果
【A17】 A-3-(7)-① 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取組を行っている。	a
<コメント>	
緊急時対応フローを整備し、各階に掲示している。利用者の体調変化を発見した職員は、介護リーダーに連絡しつつ対応を続け、リーダーは生活相談員や看護師に連絡し、生活相談員から家族や担当の介護支援専門員に連絡することとしている。看護師は状態把握や救急車を手配し、介護リーダーから役職者、安全委員会に報告して振り返りを行う手順を決めている。緊急事態に備えるため、利用者の日々の健康状態を把握することから始め、利用時の健康チェックはバイタル測定だけでなく、口唇の色や態度などを細かく観察し、記録に残している。普段と異なる変化など、早期に発見することを心掛けている。バイタルチェックは、朝と昼の2回行っている。薬持参の方の確認も行っている。本部主催の薬剤の研修に、職員が参加している。	
A-3-(8) 終末期の対応	第三者評価結果
【A18】 A-3-(8)-① 利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている。	
<コメント>	
通所介護事業所のため、評価外とする。	

A-4 家族等との連携

A-4-(1) 家族等との連携	第三者評価結果
<p>【A19】 A-4-(1)-① 利用者の家族等との連携と支援を適切に行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>利用者の家族とは、送迎時のコミュニケーションや連絡帳で、利用時の健康状態や、通所介護の活動の様子などを伝えている。家族からは、家での状態を記入してもらい連携をとるようにしている。また、利用中に体調に変化があった時は、電話で連絡している。朝の視診でぼつんと赤い湿疹が見られ、帯状疱疹の可能性があったため、シャワー浴とした旨を家族に連絡したところ、次の日には身体中に発疹が出て、受診したところ帯状疱疹だったと家族から連絡あり。早く気づいて連絡をもらい、良かったと感謝されたケースがある。家族会はあるが、コロナ禍のため、現在は開催していない。送迎時には、できるだけ家族の声を聴くようにしている。3か月に1回、広報誌を発行し、通所介護利用時の様子を写真入りで伝えるようにしている。利用者の自宅や入院先の病院を訪れ、利用者や家族の相談に対応している。</p>	

A-5 サービス提供体制

A-5-(1) 安定的・継続的なサービス提供体制	第三者評価結果
<p>【A20】 A-5-(1)-① 安定的で継続的なサービス提供体制を整え、取組を行っている。</p>	
<p><コメント></p>	
<p>通所介護事業所のため、評価外とする。</p>	